

HANA のこころ SPIRIT OF HANA HAWAII

「HANA」とは…

HANA それは ハワイ語のOHANAと日本語のHANA(花)を
融合させたアーティフィシャルな言葉

OHANAとは

昔々からハワイの人々は心と心のつながりを大切にしていました
そんなところを表すOHANAは、血縁関係を越えた人々のつながりのこと…
つながりや分かち合いを大切にする精神のこと
お互いに助け合うことを厭わない親しい友人や仲間、本当の家族のこと
地球すべてが繋がった永遠の家族だということ

HANAとは、花のこと

人は誰でも本当は 美しきものを見つめ 美しいと感じるハートを持っています
そのように人々は本来は美しい花の種
それぞれに美しい花を咲かせるために生まれてきたのでしょう

MARTHが30年に渡り書き綴り伝え続けた メッセージをほんの一部をご紹介します

The world where we live is immeasurably unknown and mystical in reality.
It is not this world nor a reality. However, our science has not revealed it yet.
It hasn't even told us we are neither alive
nor dying and within something like a physical movie.
If a concept of the eternal life is possible,
I cannot but feel it comes from our awareness to such an unreality only...

私たちが存在するこの世界は、
本当ははかり知れない未知で神秘なところなのです。
この世でもなく、現実でもなく、私たちの科学は未だ、
そのことを公表できていません。
生きてもなく、死することもない、
物質映画のような中にいることにすら…。
もし、永遠の命という概念が可能となることがあるとしたら、
そのような非現実への気づきからしか
生まれえないと感じてなりません…。

The people never wished to fight and kill others
who they believed separate and divided from
in spite of being one in reality.
They headed for the east.
We never wish to harm the people who we believe other
as we are one to the whole universe...
We cannot but hope sincerely to love each other some day...

本当はひとつなるものたちと
隔たり 分裂したと思い込み
彼らと戦ったり、殺したりなど
けっしてしたくないと思う人々が東へと向かった。
万物自然とひとつである私たちは
他と思い込んだものたちを本当は、傷つけたくないのだ…
本当はいつの日にか、
愛しあいたいとさえ深く願ってやまないのだろう…

If we lose our five senses,
we will immediately lose a division or a feeling of separation from the whole
and feel all the beings are nothing but ourselves.
If we find something marvelous for which we forget words,
we will be embraced by something magnificent and mystical.
The truth is always there even if we try to avoid it,
and both of them are something wonderful and beautiful...

私たちがもし
五感を失ってしまえば
万物すべてとの隔たりや分裂感
即座に失われてしまい
すべてがみずからと感じてしまうことでしょう
もし 私たちが
言葉を失うようなことに出会ったら
とてつもない神秘の中に包まれてしまうのでしょう
真実はさけようとしても現われてしまうのです
そしてそれは どちらも
とてつもなく美しい何かなのです…

Human illusions have been polluting the space which we call the world.
We have forgotten that we are unknown
we have ignored that we live in the unknown;
we have not seen through Oneness of the whole creation,
we have forgotten that we are not in this world, nor in this time,
nor in this place and nor are we anybody...
A part of the unknown called "I" wrote it as poetry.

人の妄想(ゆめ)は
世界と人が呼ぶところを汚染し続けてしまっています
私たちが未知であることを忘れ
神秘の中で生きていることに気づけなくなり
万物すべてががつながった一体であることが見抜けなくなり
この世でもなく いつでもなく どこでもなく
誰でもないことを忘れてしまいました
“私”と呼ぶ未知の一部は
それを詩にしたのです

Far back in childhood, an awareness was there...
the peacefulness of being one to the whole beings,
although pushed aside from your memories
That is a space where we are born out of,
where we take a journey back,
and where we become aware that we have been there all the way...

いつしかそれは
記憶のかなたへと押しやられてしまったかに見える遠い日
幼きころの意識…
それはすべてとひとつであったやすらぎです
それはあらゆる人がそこから出づるところでもあり
そこへ還る旅であるところであり
そこにいつづけたことに気づくところでもあるのです

MARTHの200枚をも超えるアルバムの中にたくさんのメッセージが込められてきました。
そのほんの一部をここでご紹介しました。

傷つけられても
愛そうとするところ

HANA

ハワイは、あらゆる人々にとって、
幸せな美しいハートの島であること
でしょう…。その最大の理由は、そ
の地が世界中の人々を受け入れてい
る、ということに他ならないでしょ
う…。誰でもが、拒絶されることで、
寂しいと思い、その地へ行きたいと
は思えなくなってしまう…

HANAHAWAII MART H
HEALINGは、ハワイの人々が
深い所に持つている世界中の人々を
愛したいと願うハートにあると感じ
ています。誰もが幸せになつてほし
い…戦争のない、平和な世界を創つ
てゆきたい…沢山の人々に訪れて、
幸せになつてほしい…そのような想
いがあると、感じてなりません…。
そしてそのように想うためには、内
側で深く、敵をも愛する、傷つけら
れても愛しむ、といったような隔た
りを克服する意識が必要です。



Magnificent Hawaii

素晴らしきハワイ

詩 / 曲 MARTH

この胸の奥に誰もが持っている
愛しき その想いをあなたが来たら 贈りたい

この島に残る 太古からの
宝物は 誰のことでも
愛そうとする 素晴らしきハワイ

この胸にいつも 大きな心持って
生きてることだけが ただひとつの誇りだから

この島に残る 太古からの
言い伝えは 傷つけられても
愛そうとする 素晴らしきハワイ
許そうとする 美しきハワイ



素晴らしきハワイ
インストゥルメンタル

■COMA-1030 ¥3,000 (税込)

自らと他、といった、二極分裂は、
私がいて、他があるという信念に基
づいています。それが科学的事実で
あるかどうかは、今の人類はまだ、
解明できていません…。しかし、古
代から、この世界がすべて自らであ
る、一元である、一体である、ワン
ネスである、ということが伝えられ
てきています。そのようなところか
ら見てみると、自と他という分裂は
妄想に過ぎないのかもしれない…
この曲はそのような想い、それこそ
が古代からハワイに伝わる、想いで
あるのだろうと…。またそれが太平
洋に広く広がっている古代文明の名
残りではないか…そんな想いから、
この楽曲は生まれました…。

MARTH

美しい旋律を 奏でる音楽は 天界からの贈り物

音楽の音と旋律は
人に大きな影響を
与えてくれます

Text: 森井啓二
Photo: 森井啓二
HANA Model AYA



愛娘 AYA オーストラリアにて
古くから MARTH MUSIC を
クリニックや自宅、車で流
していたため、AYA も音楽を
聴いて育った。MARTH CHILD AYA

日本が世界に誇るヨギにたずねて

クリヤヨガ40年歴 森井啓二先生（しんでん森の動物病院）

美しい旋律を奏でる音楽は天界からの贈り物。心身の調和を整える助けをしてくれたり、創造的なエネルギーを引き出す力を与えてくれたり、自分の波動をより良い方向へと調律してくれたり、人生のさまざまな場面で彩りを与えてくれます。

目に見えない美しい世界と物質世界の懸け橋になってくれる方法の一つが音楽です。

そして音楽は多くの人が思っている以上に深く、広く、波動を引き上げる力を持っています。私は心を鎮めて創造的なエネルギーを引き出してくれる音楽が大好きです。自然界のすべてのものは音楽的な波動を持っています。一枚の葉も、大きな岩も、小さな石ころも、空の深さや、大地の力強さ、木々の生命力、風の自由さにさえも、それぞれが奏でる美しい音楽があり、大自然の中ではすべてが一体化して調和しています。私たちの生体内の細胞も、原子も、音楽を奏でています。思いも行動もすべてが音楽的な波動を持っています。善い思いを心に描くことで善い言葉を使うことで、その波動は心身に直接良い影響を与えます。これに気づくだけでも人生はさらに豊かなものになります。だから私はいつも無垢の自然の中に入っていくことをお勧めしています。v

大自然は、神が表現した美しい旋律に満ちているからです。音楽の音と旋律は人に大きな影響を与えてくれます。そして日常では自分が最もリラックスできる心地よい音楽をかけておくこともおすすめしています。優れた音楽は場も人も、崇高な方向へと導いてくれるからです。私もいろいろなお気に入りの音楽があります。その中から一つご紹介しておきます。夜、一人で静かに聴く音楽としておすすめです。「身体を失っても愛しているからフルートソロ with オークストラ」このCDは、古代の真の愛を顕現していたリリーダの存在から現代の人へ向けたメッセージが込められています。拙著「君が代」の中で私は次のようなことを書きました。「古代の創世記の日本には、普遍意識に達した高次の意識を持つ集団が存在しました。地球を去った後も日本には、「和」の精神として、その集団の高い精神性の片鱗は日本人の心の中に残り伝わっています。そしてその影響は世界各地にも拡がり、各地に日本の遺跡に残された印と同調する痕跡が残されています。世界に散った民族の中には、その精神性を保持して再び日本へと戻ってきた民族もいました。



Book

愛しているから 世界中の人へ贈る愛の詩
フルートソロ with オーケストラ
インストゥルメンタル
¥3,024 (税込)



CD

身体を失っても 愛しているから
フルートソロ with オーケストラ
インストゥルメンタル
¥3,000 (税込)



お話を伺った人

しんでん森の動物病院 院長森井啓二 先生

世界有数のホメオパシーの獣医にして、幼少時からスピリチュアルな体験を重ね、真の和のこころを紐解く大著をしたためた日本が世界に誇るヨギ。MARTH MUSIC をこよなく愛する人…。

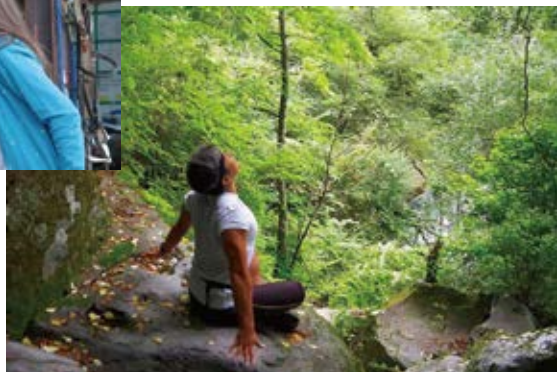
北海道大学大学院獣医学研究科卒業後、オーストラリア各地の動物病院で研修。1980年代後半から動物病院院長として統合医療を開始。著書に「臨床家のためのホメオパシーノート 基礎編」「臨床家のためのホメオパシー・マテリアメディカ」「一歩すすんだセルフケアのためのホメオパシー」など。自然が大好き。40年前にクリヤヨギたちと会う。クリヤ・ヨギ実践。



動物や自然をこよなく愛しむ AYA



MARTH の愛犬 AYA



大自然に身を置き瞑想をするひととき…

古代日本にいた大師たちは、肉体を脱ぎ捨てた後地上では表現できないほどの美しい純白のオーラに包まれ、現在の地上の人々から見ると神のような存在として地球を見守っています。彼らが地上時代にいた日本が、この時期に再び人類の進化の中心となる役割があることは必然なのです。今回のこのCDは、このすべては一つであるという「和」の精神を再び日本へと持ち帰った古代の民族の愛と願いを感じます。今はこの世からは去ってしまったけれども肉体がない今でも私たちのことを真に愛していること、そして和の精神、真の人類の繁栄と万物から祝福されるための法則を記した古代の石版の真意を伝えたい気持ち、すべての人が再び高い精神性を取り戻してほしいという願い…。それらがこのCDの音楽で表現されています。

この曲を手掛けたのは、作曲家のMARTH氏。彼は、天界の音楽を地上に持つてくることのできる懸け橋となる才能を持っています。かつて過去世ではヨギとしてまた瞑想の達人でありました。私が今生で初めてMARTH氏にお会いした時に彼のバックグラウンドには、天界の音楽家たちや音楽に長けている天使たちがサポートしている様子が視えましました。彼は一人で作曲しているというよりもとても多くの天界の音楽家たちの美しい旋律と天界からのメッセージをヒーリング・ミュージック

として地上に下ろす役割があるようです。このヒーリング・ミュージックという言葉は、英語圏では当初あまり受け入れられなかった言葉です。ヒーリングという言葉にまるで病人が治すために聴くようなイメージが出てしまったようです。かつては海外ではニューエイジ・ミュージックと呼ぶのが一般的でした。でも優れた音楽は、その音と旋律によつても人も含めたあらゆる存在を癒す力を持っています。自然界から一歩離れてしまった現代社会では癒しの力は必要です。それが理解されはじめ今ではヒーリング・ミュージックという言葉が定着しています。音楽で場と人の波動が上がると、こんどはその波動が上がった人からもまたいい波動が放出され、よりよい影響が拡がっていきます。「身体を失っても愛しているからフルートソロ with オーケストラ」この音楽には一緒に読む書籍「愛しているから世界中の人へ贈る愛の詩」もあります。音楽だけでは伝えきれないメッセージが込められています。



人を傷つけないために
美しきスピリットたちは
東へと向かった

その民は、東の地、何万キロ以上の旅をしてでも、約束の地、大自然と万物と、また、とてつもないなにかと約束をして、決して他の人をあやめない、奪わない。そのような心を決めて旅に出たと言います。屈強な男たちが何十万人もいて、まったく敵と言われる人々と応戦もしないで逃げ続け、やつと国を作ったけれども、またそこに攻めこまれた時、相手を傷つけないがゆえに、その地を捨てた。東の地へ向かったのだと。そして、また、そのリーダーが遺したというものにも、やはり、傷つけない、自然界や動物たちやあらゆるものを傷つけない、そういうことが書いてあったそうです。それは、未知なるとてつもないレベルでは、すべてがつながっていてひとつである、そのようなことをその民は知っていた、この世でないこともわかっていたからではないか：と言うのです。

今回の本やアルバムの内容をフイクションと言っていますが、MARTHの幅広い支持者のなかには多くの精神世界、ニューエイジ、古代歴史家、考古学者、様々な研究者や学者、医療関係者など、たくさんの方々がいます。最近では許可を得てアークを掘りに行くという人までいるようです。ましてや彼自身の一族も、淡路島にある空海が開いた寺だと言います。そこからすると、音楽や詩やエッセイの真髄に秘められた真実のようなものを感じるのには、そういう筆者だけではないでしょう…。

愛しき人との別れの経験が、
死を超えてゆくというテーマを
彼にもたらしめたのかもしれない…。

子どもの頃は、死がとても怖くて、お父さん死なないで、お母さん死なないで、自分も死にたくない、とよく泣いていたという。でも、「ここはどこかわからない。はかり知れない。名前をつけることは出来ても、誰かはわからない。科学的にそのようなところで、生きているかどうかはわからない。

未知や神秘の中で人はどうして死ぬことなどできるのだろうか…

それらはすべて変化に過ぎず、この未知からあの未知へ

この神秘の世界からまた別の世界へ

旅する旅人のようだと思えてなりません…。

この世でないところにいるのになぜそれに気づけないのか…

それがあたりまえになることが人類にとっての奇跡ではないだろうか…。

MARTH

素粒子レベル、電子レベル、もつともつと、
そういう名前で言わないにしても、未知
なるとてもないレベルでは、すべてが
つながっていてひとつである。」若き日、
そのことに気づいてから、彼は死が怖く
なくなつたと言います…。

そして、宇宙の果ての果て、永遠に続く、
夢のようだと…歌にしています…。「自
分のことで色んな苦しみやつらさがあつ
たときも、私などいない、存在していない、
生まれてもない、この世でもない、現
実でもない、というような真の科学とい
うのか、真実というのか、そういったもの、
リアリティの中に目覚めることでやすら
ぎが来る」からと…。

「この世界はとてつもない世界…神秘な
る、永遠なる、宇宙の果ての果てどこまで
も続く、まるで夢の中と同じでどこまでも
続く世界である…。私たちはそこに名称付
けをして現実だとか、名前で呼ぶことで、
また、五感をとおしてもそのように確認す
る。しかし、この世界は依然神秘であり、
未知であり、この世かどうかすらわからな
い…。私達は本当は、そういうところに実
は存在している…。いや、存在しているか
どうかすらわからない…。

存在していると、もし、仮定するためには、
いつ、どこで、誰が、ということが必要
になつてくるが、いつでもない、どこで
もない、誰かもわからない…。名をつけて、
一応地球とか銀河と名前をつけたとして
も…。ここはどこか、ここはニューヨーク
だ、ここはパリだ、と名前をつけたと
しても、本当は、どこかわからないところ、
永遠に…。名称付けが可能であつても、
どこかわからない。はかり知れない。名
前をつけることはできても、誰かはわか
らない…。生きているかどうか、だから、
わからない。科学的に、素粒子レベル、
電子レベル、もつともつとそういう名前
で言わないにしても、未知なるとても
ないレベルではすべてがつながっていて
ひとつである」と…。彼は、そんなこと
を詩に託しているようです…。

そして、いつでも、例えば、日課のプー
ルに入っているときでも、「私などいない
…。ここではどこでもない…。未知なる、
神秘なところ…」と言いながら、真の
リアリティに気づくようにしていると言
います。そして、また、音楽もすべて、
そこから創つていふのです。

古代から伝わる 神秘なる世界

「古代では、もうこの世界があのだであり、この世ではないという感覚の中で、全人類がそのような認識を持つている場合、物質は変化します。素粒子レベルでは現在でも変化しています。見られたものは強まり、忘れ去られたものは薄まる。それは原子レベル、素粒子レベル、そう呼んでいる、人類が今、呼んでいるレベルではそういうことが起こってくるということはもうまもなく当たり前になってくるでしょう。そういう世界の中では、『この世』という感覚ではないのです。そうなつてくると“生まれた”ということも非常に当てにならない。また“死ぬ”ということも、あのだで死んだら、何なんだろうか？わからない、神秘なる、未知なるところで死ぬというのは、本当にあるのでしょうか？

詩で伝えている「物質が素粒子レベルに分解されてゆく、しかし、素粒子レベル、電子レベルで残る」それはどういふことなのでしょう？これからの科学は、これからの人類はそこに入つてゆくことになるでしょう…

今後十年以内に急激に、そちらの方に向かうと思われまふ。そして、そのようなときには、この物質映画のような世界である、ということがますます明るみになり、そこで死ぬということがどういふことなのか、からだを失うということがどういふことなのか、ということも議論されてゆくことになるでしょう。」

We are in a vastness that cannot be understood.

In reality, it is a mystery and is immeasurable,
now, at this very moment.

「そして、そこから見れば、古代の民の子孫であるイエスが、永遠なる命とか、死を超えていると言ったことも、また、逆に、そのようなことに気づかないと魂を失うとか、死を迎えるというふうと言ったのも、この世と信じている人々には死があるということであり、死の恐怖にさいなまれることになります。しかし、この世でないことを知っている人々、要は物質映画のようないかな、とてもない神秘なところだと気づいている人々には死がありません。彼がもしそのことを本当に言ったとすれば十字架に磔になつて死んでゆく時ですらも、私の教えを請う人々には死がない、と言ったのは、そういう意味で言ったのではないのでしょうか。また、そこから見ると自分を殺そうとする人たちに対して、彼らは何も知らないのです、神よ、お許し下さいと言ったとされていることも理解できます。それは、つまり、物質を超えている、電子レベル、素粒子レベル、もつともつと細かいレベルでこの世界は存在している、すべてが一体でつながっている、すべてがひとつで一体物であるというところから見ると、他と見えるものを滅ぼすということは、奪うということ、騙すということ、とは、他と見えるだけで自である一体である、そしてそれは一種の物質映画の世界であるという風に理解した時にはMARTHが詩にし続けてきたように、当然そのような思いになつてしかるべきものではないでしょうか。」と…。



HANAの音楽の世界の 根底にあるものとは：

MARTHは日頃、現代物理学が今すでに解明しているというこんなことを話しています。「この宇宙のすべてのものは振動している。それぞれ、固有の振動数を発して、振えている。当然、植物にも、人間にも、犬や猫たち動物も振動している。でも、そのような有機物の振動は不安定である。一方、石などの無機物は非常に安定した高い周波数を出している。」そこから見れば、古代の文明で、石（岩）をととても大切なものとして扱い、スーパーナチュラル、神とまで崇めたのも、石の高い周波数に共鳴して、不安定な体やところが正常に整うことに、人々が精通していたからだと言えるのかもしれない。」ヒーリング・ニューエイジの世界：特に音楽に関しては代表的存在とされるMARTHが、そのことに着目して、岩盤の温熱ファニチャーを編みだしたことも、当然なことと言ってもよいのかもしれない。」

そして、昨今では、ソルフエジオ周波数という壊れたDNAを修復するという音楽が注目を浴びているように、MARTHが音楽を媒体に、表現し続けていることも、当然と言えば、当然のことなのでしょう。。音楽を創るときは、広い、愛のころでないうちの心でつくれない、だから、いつもその心がけで創作するようにしていると語るMARTHの作品の数々は、はからずして、ソルフエジオ周波数と同じ振動でゆらいでいるそうです。そして、さらに、かつては人々の成長を助けるトレーナーであつた彼は、私たちの知覚(脳)についても、興味深いことを語ってくれました。「空や山や木々や花々や動物、すべてのものが振動して、それぞれに周波数を出しているけれど、たとえば、木々や、花々に色がついているわけではなくてそれは、私たちの脳が、緑なら緑、赤なら赤と知覚しているから、そう見えるのです。」

人類が死を超えてゆくには
この世が現実でないことにつくづく気づくことによってだろう…
by MARTH

一方、動物たちが見る世界は白黒だそうです。彼らの脳は色を知覚することができないからです。すべては受け取る受信機の問題…。

自己と対象物との関係があつて、そう見えると言つたとしても、それが実際のものであるとは限らないでしょう…。

そして、魂も私たちの脳では体の内側にあると感じているようですが、実際は、外にあつて、だから、アカシック・レコードのようなことが言われたり、臨死体験として意識が広がって、全部が自分になつたというような体験談があるのでしょうか…。

そこからすると、「私もなく、他もなく、すべてがつながつていてひとつのもの、未知なる、神秘なるもの…」といういつものMARTHの言葉がある種、真実味を増して聞こえてくるようです。新幹線に乗るときも、山を見ながら、木々を見ながら、MARTHは「山ではない、木ではない、名称ではない… 何だかわからない、神秘なるもの…」などとつぶやいていると言います。そんなMARTHのいつものながらの荒唐無稽な一見バカバカしいと見える話にとまどいつつも、私たちが惹かれていくのは、きつと誰もが本当は、深いところで万物の一部として、宇宙の真実を知っているからなのでしょう…。

だから、彼の音楽に深く癒されるのでしょうか…。そして、最後に、MARTHはそのようなヒーリングやニューエイジのジャンルの一番の素晴らしさは、死を越えていける、現実感が減つていく、念望、希望、野心が薄まつていく、そのことで至福が深まつていく、それがやはりその世界の一番の良さであり、逆に現実感や五感が強まれば強まるほど、人間は不安や怖れにさいなまれる、そんな風に今はとらえている、と語ってくれました。

MARTHの作品をとおして、世界中の誰もが、賢者たちや古代の民の愛の深さに気づき、その胸に新たな美しい世界への希望の灯をとすことを心より願います。



すべての作品が生み出される

そのみなもとについてお聞きしました…。

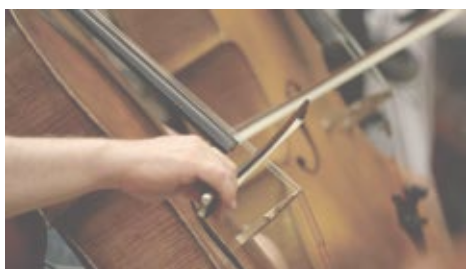
Q：MARTHさんの音楽を聴くと、涙が溢れて止まらなくなったという方が沢山いらっしゃると思います。最近アルファ波が出るヒーリング音楽などが流行っています。MARTHさんの音楽とは何か違っているように感じます。それはなぜなのでしょう。

MARTH…まず、MARTHが音楽を創るときには、切ない、悲しい、愛しい、そのような素直な気持ち、その中に入っている曲を創っているだけなのです…。アルファ波や、その他の周波数が出ているのか、出ていないのかは全くわかりません。そのことより、自分の本心、ありのままが大切なのです。自我が強がっていない状態、悲しみを許し、切なさを許し、愛しさを許し、一見恥ずかしいようなありのままを叫ぶような、そんな想いを詩や音楽にこめ、そこに誠実であること、それだけを意識しています…。人々が聴いたときに、大切な人を想いだし、謝りたくなったり、愛しいことを

伝えたくなったり、彼は元気にしているのか…。彼女は今、何をしているのか…。隔たっていたものが自らの中から落けてゆくような、そんな音楽でありたい…。そう想い続け、生みだしてきました…。今、質問されたことが起こるのは、そのような想いがすべての楽曲にこめられて、生み出されてきたからではないか…。そのことを大切にできたからではないのか…。そのような想いの中に入っただけ、決して音楽を生み出さないで、きたからではないか…。そのように感じてもらえません。

Q：戦いが多い社会の中で、日々ストレスを感じて生きています。MARTHさんの音楽を聴くと、すごく穏やかな気持ちになり、愛を感じます。どういうところからそのような音楽が生まれるのでしょうか。また、これからの新しい時代、新しい生き方について、MARTHさんはどのようにお考えですか？

A…MARTHの音楽は、愛と言ってしまう。例えばそれだけのことなのですが、愛とはすべてがつながっている、一体であるということにほかなりません。ですから、愛というものは、共に生きてゆきたかったなあ…。謝りたかったなあ…。戦いたくなかったなあ…。…そのような本来の自分の中にある本質、本当の心、そこに帰ったときにだけ、楽曲を生み出すということをしてきたために、演奏する人々も含めて、また、この楽曲に関わる人々がそこへ自然と引つ張られてゆく、ということはあるのでしょうか…。そのように最初に創ったときのその想いや感覚は、仮にMARTHがそうでない感覚を持っているときとは何の関係もなく、





創ったときのまま、それはCDとなり…演奏をするときも、演奏者の人々がそれに影響を受け…その想いというか、そのときに在ったものが、いつでも演奏の度に現れてくる、またその演奏を録音すると、その想いそのものになっている…。そんなことがあるのかもしれませんが…。それゆえに、それを聴いたときに、聴いた側の人々もそれを感じ、そうなつてゆく…ということではないでしょうか…。

この世界は、長年分離や分断、隔たり、要はひとつではない、といった自我の拡大、競争の世界、言ってみれば争いの時であったと言えるのではないのでしょうか…。

それは愛とは逆さまな価値観で営まれてきた時代だと言えるでしょう…。そのために、本来の本来の人間の内側にある本質、ワネスや、ひとつである、一体であるという、本当の真理、それには合わない社会の中で人類は生きることとなったのでしょうか…。当然、そこにはストレスといったものや苦しみ、つらさが生まれ、その世界の苦しきというものはかりしれず、本質で生きられなかった人類の苦しきは、大変大きいものとも言えるのではないのでしょうか…。

自我とは何でしょう…：自らの肉体を自と見、後は他と見る万物の部分のそれぞれの自己防衛のための大切な機能であったものでしょう。

しかし、それらは過剰であつては問題が生じます…。分離感の価値観が強い世界では、それは大変過剰になってしまいます…。これからますますそのようなことに目覚め始めた人類は、全く新しい生き方、とはいっても内側にはずっと古代からあつたひとつなる（和する）想いが、やつと花開く時代になると言っても良いのではないのでしょうか。今までは分離や分断、隔たりということとをベースに、そのことを強く信じた者がそれが動物であつても、人間であつても、この勝負の世界で心理的に傷ついた人々、要は一体の世界の中で分離感が強い人々が世界を支配し、世界のリーダーシップを握つてきた…そんな時代だったのではないのでしょうか。

これから人類はそのことに気づき、その分離感は過剰になると私達の本質に合わない、苦しみにしかならない、ということを知り、またそれが宇宙の法則に合わないために、あまり良き人生にならない、ということに気づき始めることによって、人類は愛する方へ、愛しむ方へ、ひとつなる方へ、

つながっている、一体であるという方向へ、急速に進んでゆくのではないのでしょうか。そこから生まれる文化や文明、社会はとてつもなく美しく、とてつもなく愛しい、天が本来望んでいた、恐れからの争いや戦い、支配や隷属のない、素晴らしいものになつてゆくことは、間違いないことと感じてなりません…。



MARTH CD をご使用頂いているドクターのお声をご紹介します

点滴療法研究会 会長

SPIC Salon Medical Clinic 総院長 柳澤厚生 先生

MARTH さんの音楽を聴きながら、いつも心静かに仕事をしています。よく海外に出張致しますので、その時も本と音楽を携えてまいります。「愛しているから」のプラハヴァージョンはニューヨークで聞きましたが、ゆったりととても優しく子守唄のようなBGMでした。本も素敵なパステルカラーの絵が優しく目に飛び込み、癒されました。私の役割は、例えば、放射線被曝の問題は原発に反対するのではなく、被曝から国民の健康を具体的に守るためにどうするかを考えています。子宮頸がんワクチン副作用問題ではワクチンに反対するのではなく、いま苦しんでいる子供たちをどう治療して救おうかと活動することだと感じています。必要ならば、患者さんのために医者はあらゆる束縛や枠組みを乗り越え、最善の医療を自由に提供する存在でありたいと思います。それを私は「ニューエイジ・メディスン」と呼んでいるのですが、皆が愛に包まれている世界を作りたいという想いが、MARTH の音楽に共通する部分があるのかもしれません。

「ヘミシンクとスピリチュアリズム」(文芸社) 著者 鳥の海歯科医院 院長 上原 忍 先生

最近、待合室用にと買って買ったコンフォート社の癒しの CD を自ら積極的に聞いています。私の日課は、朝のジョギング。海辺を5キロ程走ってきます。自宅に帰って来て、今まさに春を予感させるこの季節にぴったりの曲を聞きながら、軽い瞑想をします。そして、今日も一杯エネルギーをいただいて、診療に向かいました。

医療法人 緑優会河瀬歯科医院 理事長

河瀬敦 先生

今私の仕事の中核になりつつある訪問診療のお供に、使わせていただいています。現場では、会話もなく、音楽もない孤独な生活の人生の先輩方に、口腔ケアを施しています。当初は患者さんのリクエストで童謡などのBGMをかけていましたが、HANA をかけるようになってから、よくわかりませんが違いました。BGM と会話で癒される事で、認知症の進行がストップした方がおられました。お粥しか受け付けなかった方も白米が食べられるようになりました。最後を看取った方も病気で苦しまず…きっと最後の瞬間は HANA の思い出と共にあったのではないのでしょうか？素晴らしい音楽の力に感謝です。

元サンフランシスコ交響楽団首席第二バイオリニスト 音楽学博士 Daniel Kobialka ダニエル・コビアルカ

「天上の音楽」は、宇宙のちからを体現する万物の一部であり、あらゆる生命にいどむ不調和を変化させるちからを備え、私たちを普遍的なみなもとの 強力なエネルギーに触れさせてくれます。以上のことは、優雅でメロディックなMARTHの音楽について、私が心の底から感じたことです。あらゆるものを包含した普遍性への彼の深い理解を、私は自分の存在で深く感じ、創造的な表現の谷間をぬって、音楽を創り上げました。私は彼の偉大な創造性とその純粋なやさしさの一部であることに感謝し、光栄に感じています。この普遍的な美しさもたらす平和、静けさ、情熱、そしてハーモニーに、リスナーの皆様をお招きいたします。

「健康自立力」著者

脳外科医・医学博士 田中 佳 先生

20 年以上前 まだ 日本では「癒し」「ヒーリング」という言葉は市民権を得ていない時代から、こことからだの癒しをテーマとして商品の開発制作販売をしてきたそうです。全く知りませんでした。どうして出会わなかったのだろう。脳外科の救急にいたら出会わないかも。いま、こうして出会えて良かった。音楽を聴いていると、音楽が感情を揺さぶり、癒す力を持つ音楽により、副交感神経は刺激され、種々の脳内物質は分泌され、ストレスは発散され、自然治癒力は向上へ向かう。もはや向かわざるを得ない。なんと、泣きました。悲しくてではないのです。感動したという感覚もないのです。そんなに真剣に聞いてませんでした。なのに、あれ？顔に水が流れてるけど、なに？そんな感じてした。驚いたなあ、もう。何に働きかけたんだろう。曲もいいのですが、歌詞もいいのですが、聴き始めは ふーん でした。1/3 くらい進んだところですかね、眼から水が流れたのは。で、もう一度聴きました。今度は歌詞を読みながら真剣に。あーそーかー今のわたしの琴線に触れるわな と。こんな 心に染み込んでくる音楽があるのかととても不思議に思いました。なんて聴いても染み込んでくる曲の数々。心の奥底まで染み込んでくる曲の数々。昔懐かしい何か、忘れかけていた何か、心の何かに触れてくる。激しくはなく、そっと包み込まれるような優しさで。悲しい訳ではないけれど、なぜか涙が溢れ出てくるのです。とても不思議な感覚。あまり感じたことのない感覚。とても心地よい感覚。もっともっと浸っていたい。永遠に続いて欲しいとも想えるのです。こんな涙はいくら流してもいい。でてくる言葉は、ただただ、ありがとうございます。自分のたどってきた人生の数々の経験ひとつひとつに響いていくのです。

「胎内記憶」著者、池川クリニック(産婦人科神奈川)

院長池川明先生よりご感想を頂きました。

「愛しているから 世界中の人へ贈る愛の詩」を読んで…

今回のアルバムの本は、今 MARTH さんが世界に向けて届けたい思いが、古代人からひも解き、失われた十氏族の末裔である日本人に向けて、古代人の思いを現代に伝えるという、壮大な意図が感じられます。また、生きること、死ぬことということを踏まえた現実社会をどのようにとらえているのかも垣間見ることができます。私なりの解釈で MARTH さんの文章の結論を出せば、ごみの自我の部分ではなく「たましい」の部分、すなわち宇宙の意思の部分で人と人がつながっていくことで、生きることに喜びを見出し争い事がなくなるだろうと伝えているように思います。私はこの「たましい」のつながりを母親と子供、母親と父親というように、家族の中で広めていきたいと考えていますが、MARTH さんは対象が世界のひとと、スケールがけた違いに大きくなっています。しかし今回の本の中で明らかにされていますが、MARTH さんの生き方や考え方は、お父上に大きく影響を受けていることがわかります。そうだとすると、多くの人が MARTH さんのお父様の考え方を理解し実践すれば、MARTH さんのように平和を愛し実践できる人たちが次々に生まれてくるということだと思います。まさにその考え方を広め、かつ実践するために今回の CD と本ができたのだと思います。同じ意識を共有する人たちでつながっていき、次第にそのつながりで地球全体を覆いつくすための暗闇に掲げる松明のような今回の CD と本が皆様の手元に届くことを祈っております。

リリー動物病院東洋医学クリニック 院長 工藤ゆり子 先生

動物病院に掛ける CD を探していた時に、あるご縁でこの音楽を知りました。それからは毎日『身体を失っても愛しているから～ Flute Solo with Orchestra』のフルートの音色に包まれながら、心穏やかに動物たちの治療をさせて頂いています。初めてこの CD を聴いた時、涙が溢れて止まりませんでした。不思議な感覚でした。懐かしいような…そして自分の大元というか素に戻れるような感覚でした。聴いているだけで本当に心が穏やかになっていくのですね…。私たちはいつも外部で起こることにおどられ、心乱されながら生きているところがあると思います。選択には「愛の選択」と「恐怖の選択」があると言われています。こんな時代だからこそ、この音楽を聴きながらどんな時でも「愛の選択」ができる自分でいられたらと思います。多くの動物や多くの方々がこの音楽で癒され、そして一つに繋がっていることを思い出す日が来ることを願っています。

ささき歯科医院 院長 佐々木 裕道 様

私は歯科医院を経営しております。最近縁あって MARTH さんの音楽に触れる事が出来、曲を待合室と診療室にかけています。透き通るような音、メロディにずっと頭の中に染み渡りまるで身体の一部を聴いているような錯覚に陥ります。柔和な表情になる患者さんもいて、診療室にあらたな空気が流れていると感じています。また就寝時や起床時に瞑想することがあるのですが、MARTH さんの音楽を静かに掛けながら行くと集中し易くなり、マインドフルな状態になり易く満ち溢れたパワーを得られるように感じています。

アニマルフレンド 赤坂 直比古 先生

この音楽は立派な医療機器だと思えます。おおげさに聞こえるかも知れませんが、涙するのはよくわかります。抗がん剤よりも効果的。日常的なデトックスに薬よりも有効。効果あり。綺麗な言葉、美しい音楽はキレイな結晶を結び、その反対では荒い結晶を作ります。生体は 60～70% は水。だから御社の CD を聞けば、生体の水はキレイな結晶をつくり、その結果身体は浄化され健康になる。植物も同じ。実験では同じ条件でキレイな言葉とそうでない言葉では咲き方、枯れ方に差が出ています。音楽 美しい音楽は、もっと違うことと思っています。だから癌患者に抗がん剤より、うつ病患者に抗うつ剤より、御社の音楽がいいと信じています。今後そんな症例には積極的に使うつもりでいます。よろしくお願いします。

NPO 法人バイオフィールド医学研究会 会長 医学博士 田中凡巳 先生

「身体を失っても愛しているからフルートソロ with オーケストラ」は、私自身の癒しの曲で、健康相談や講演に赴く際にも必ず聴いています。フルートとオーケストラの演奏が見事にハーモナイズされていて、揺れ動く心の波が静かになっていきます。本当に魂に響く美しい調べですね。感動の涙とともに…

医療法人 愛光会 理事長 三宅歯科医院 三宅信義 先生

最近、MARTH さんの音楽や書籍を医院やヒーリングスペースで流していますが、とても心地良い素敵な癒やしの空間が創られているのを感じています。音や言葉は自分の中の無意識の色々なものを呼び起こしてくれます。無意識の奥底まで響いている音や言葉の持つ限らない力は、潜在意識の蓋を緩めていき、思考を超えた時空に人を誘います。そこから自分の本質へと繋がる道、愛や命に気づく至福へと繋がるのでしょうか。全てのものが振動で成り立ち、共振、共鳴によって現象（世界）が生まれていることが証明されつつあるなかで、何一つ分かれていないものが無いという生命の輝きに気づいていくのでしょうか。この音楽や書籍の言葉には、そういったもともとの本質に帰る魂の響きが夜空の星のようにキラキラと沢山散りばめられているように感じられます。是非皆様におすすめしたいと感じています。

さいきじんクリニック 院長 齋木豊徳 先生

54 年の人生を振り返ると…そう、いつも音楽が近くにありました。医学と音楽。実はあまり関係がないように思われるかもしれませんが、私はそう思いません。なぜならば最近の医療には「統合医療」という概念があります。統合医療とは西洋医療だけにこだわらず、代替補完医療（ホメオパシー、音楽療法やハーブ療法、ヨガ、瞑想など）も取り入れて患者さんに最も適している医療を組み合わせ、提供する医療のことです。その中に占める音楽療法は位置づけとして重要と考えます。私は時々こんな妄想をします。人は何もかもを失ったときにどんな状態になるか？何を心の支えにするのか？知らず知らずに歌を口ずさむことをしていないでしょうか？もし今の生活の基盤を失うような戦争や震災などで住む場所もない、着るものもない、食べるものもない状態ができたとしたら…このように皆不安でどうしようもない時にこそ、音楽・歌は多大な力を発揮すると思います。我々は、実はそれを知っているんだと思います。だけど豊かになりすぎてそれを忘れていていると思います。もう一度思い出してみるために古いアルバムを取り出してみて一つ聞いてみませんか？音楽から伝わってくるのはそれぞれの受け手によって違うでしょうが、きっと目に見えないもの。時に光であったり、風であったり、遠い記憶であったり…そして受け皿はなんですか？ これもまた目に見えない、そう「こころ」であると思います。どちらも目に見えないものだから、人に伝えるのも説明するのもむずかしいのですが、その反面、感じていただけやすい環境や工夫が要るのです。MARTH さんの楽曲をとおしてその受け皿の「こころ」が呼び起こされたり、刺激剤のように感じやすくなる。まさしく「こころ」が感じやすい工夫ができる気がします。嫌なことがあったり、いいことがあったり、「こころ」の受け皿が刺激されているときに音楽を好んで聞いてみてはいかがでしょうか？嫌なことを忘れられるかもしれません。前向きになれるかもしれません。音楽の無限の力と医療を結びつけて、多くの方々と楽しみながら「明るく生きる。そしてたくましく生きる」を実現したいものです。皆様もぜひ何かを感じて共感していただけたら幸いです。